

生物多様性の保全から活用へ

～生物多様性の主流化に向けた基盤情報の整備と情報発信～



行政だけではなくさまざまな社会経済活動の中に、生物多様性の保全と持続可能な利用を組み込み、「生物多様性の主流化」を目指すため、必要な情報の整備や発信、活用事例づくりを行います

なぜ研究が必要なの？

<現状と課題>長野県では2014年に「生物多様性ながの県戦略」を策定し、「人と自然が共生する信州」の実現に向けてさまざまな施策を展開してきました。しかし、生態系問題の単独テーマとしての解決には限界があり、多分野での保全策の実行と連携が不可欠であると指摘されるようになってきました。

<目的>本研究では、従来からの自然保護分野に加え、地域づくりや教育、文化などさまざまな分野との連携による社会課題の解決を目指し、長野県の地域特性に即した生物多様性情報を整備し発信していきます。

どうやって研究するの？

①野外調査

動植物の分布をはじめ、自然環境の現状を調査し、地域の特性や保全上の課題を把握



②ヒアリングやアンケート

地域の生態系に支えられた多様な生業や文化、保全活動の現状や課題などを調査



③保全策や活用策の検討

調査結果をもとに、行政や地元関係者とともに、持続可能な地域づくりに向けた保全策や活用策を検討



地元関係者との会合

④情報発信

地域固有の生物多様性の価値をウェブサイトや冊子などさまざまな媒体や機会を通じて発信し各分野での生物多様性情報の活用に貢献

どんなことがわかったの？

霧ヶ峰でニホンジカの食害からお花畑を守るために設置された防鹿柵が植物の多様性の保全にも役立っていることが分かりました。

北アルプスの麓でニホンジカが標高の高いところや北部地域へ分布を広げつつあることが分かりました。

開田高原では、かつては採草場が広範囲に広がり、草花がたくさん咲いていたことが分かりました。火入れや草刈りなどが継承されることで開田高原の豊かな生物多様性が維持されてきたことを多くの人に知っていただき、地域の大切な資源として活用できないかと考えています。

